

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家 (はまなす)		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日	平成23年2月21日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ユニットには要介護5の方が一人いらっしゃるが、寝たきりにはしないで日中は離床して頂き、他の入居者と一緒に過ごして頂いている。賑やかな状況では本人の反応も多い。
 ・職員が入居者を常に観察して、事故やトラブルが起こらないように注意を払っている。
 ・ホールの雰囲気作りにも気を配り、飾り付けを入居者さんと一緒に楽しみながら行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502710&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの大きな特徴の1として、職員の資質の向上を図るための研鑽が盛んであることです。内部研修は勿論、外部研修への参加は代表者が率先して勧められ、シフトの変更や参加のための交通費、参加費などの経費は、法人が負担することとなっています。また、特徴の2として、これまでの2件の看取り体験もあり、重度化や見取りに関する職員の意思の疎通が良く、これらの体験は利用者へのサービスの質の向上として反映されています。利用者にしっかりと向き合った職員の対応は、家族の安心にも繋がっており、代表者が願う、家族の負担軽減を図ることが、脈々と実践として営まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を含めた職員で理念を作って共有しているが、地域密着の意義を踏まえた理念にはなっていない。理念の作り直しも検討しているが、実行には至っていない。	法人としての運営理念は地域密着型に沿ったもので、職員は理念の意義を十分理解しながら、共有かつ実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、地域の行事（盆踊、夏祭り等）に参加している。隣の公園に散歩に行き、近所の子供やゲートボールをしている方々と会話したりしている。	ホームの周辺には、住宅が少ない条件下にあります。町内行事への参加やホームが主催して行われる夏祭りは、地域住民の方々の楽しみの一つとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けての介護相談の窓口になっている。隣の公園にて事業所主催の夏祭りを行っており、介護技術や介護用品の相談の場も設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に定期で行い、入居者の日常生活の状況や行事について報告を行い、意見・助言を頂いてサービス向上に活かしている。	2ヵ月毎の定期開催が継続されています。現在、家族の出席が少なく、会議の内容を全家族に報告し、また会報で周知するなど、一層の家族の出席と内容の充実を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者とは、困ったことがあった時は相談に乗って頂き、人事等の件でも相談に乗って頂いている。	区の担当者とは、保険、生保関係など、多岐にわたる相談と指導を受けてサービスの向上を図っています。今後は、自己評価での課題を伝え取り組む予定となっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的ではないが、身体拘束の勉強会を行ったり研修に参加したりと、理解を深めている。夜間は安全・防犯の為に施錠するが、日中は開いており自由に出る事が出来る。	身体拘束のないケアを実践するため、ユニット毎の会議や勉強会を通して学びあっています。日中、ユニット間の行き来は自由ですが、防犯上、玄関のみ夜間の施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的ではないが、虐待の勉強会を行ったり研修に参加したりして理解を深め、スタッフ間でも意見を出し合ったりして、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度などを利用している入居者はいない為、制度に関する知識は不足していると思われ、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時は契約書を読み上げながら説明して、不明な点などを確認しながら行い、理解・納得してサインを頂く様になっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は意見・苦情は直接職員に訴えている。また、家族に対しては意見箱を設置している他、運営推進会議にも参加して頂き意見・要望を伺っている。	家族の訪問時を利用した情報の提供と意見・要望の聴取に努めています。更に意見箱や会報など、有効な媒体を通じた意見などの収集が必要と思慮します。	ユニット毎に作られる会報には、更に家族が知りたい情報を掲載したり、「意見箱」の有効利用、また、利用者の楽しみとなっている食事内容を家族に知って頂くなど、情報を通して運営参加をして頂く取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回定期的に職員参加の会議を開き、意見や提案等を自由に出してもらっている。	代表者は、ホームの雑用を一手に引き受けながら、職員の意見や提案などを聞く役割を担っています。それらは時間をかけず検討され、反映するよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニットの会議に出席し、管理者及び職員らの状況を把握している。その時々状況に応じて、育児休暇や介護休暇の奨励など、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は事業所で必要と思われるものは職員を指名して参加して貰う事もある。研修修了後は、月1の会議にて他の職員に内容の伝達を行って貰っている。実践者研修などは年度初めに予定を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や管理者会議、連絡会に参加して情報交換を行い、ケアの質の向上に活かしている。しかし、まだまだ不十分であると思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、不安や希望などを傾聴して、安心して入居出来る様に支援している。また見学もして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホーム見学して頂き、ホームの生活を見て頂く。その上で、不安な事や質問などを伺い安心して入居出来る様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の時に、家族や本人がどのような希望があるか確認し、必要なケアを検討しながら準備を進めている。病院等に入院されている方は、スタッフからも情報を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活している」という雰囲気作りを心がけ、会話を楽しんだり料理を作ったり、行事に参加したりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも可能であり、その時はホームでの最近の生活を伝え情報を共有している。行事の時にも案内を送り、敬老会や外出など一緒に参加されるご家族もいらっしゃる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてこられ、会話を楽しまれる光景が見られる。また、自室に電話を引いている入居者もおおり、家族等と会話を楽しまれている。年賀状や手紙も届いている。	馴染みの美・理容院の利用や知人との手紙のやり取り、また、正月の初詣、獅子舞など、昔を偲ばれる行事への参加を家族の支援を得ながら行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を把握し、仲良く楽しく過ごせる様に配慮している。体操やレクリエーションは大人数で参加して頂き、仲のよい関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年退去されて病院に入院された方に関しては、病院にお見舞いに行っていた。お亡くなりになった時はお焼香をあげさせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を参考に本人の暮らし方の把握に努め、ケアの際には声掛けして了解を得てから介助を行っている。	職員は利用者の表情を機敏に察知しながら、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めると共に、情報の共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・また関わってきた方々から情報を集めアセスメントを行い、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態・生活の様子を記録に残すようにしている。1日1頁で、食事や排泄・夜間の状況まで確認できる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の他、協力病院の医師や看護師からも意見やアイデアを出して頂きながら、本人の課題を解決しより良い暮らしを出来る為のプラン作成に努めている。	定期的な見直しに係らず日常的なモニタリングの実施により、アセスメントが構築され、介護計画の策定に反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活が把握できる記録を用い、ケアの実践や結果を記入している。記録はいつでも閲覧可能で、情報共有と共に計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や受診などの希望は各ユニット職員だけでなく、事業所全体で対応している。1Fがデイサービスになっており、行事に呼んで頂く事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事にボランティアをお願いし車椅子を押して頂き、買い物等を楽しんで頂いている。また、正月の獅子舞等もボランティアをお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としての協力病院はあるが、本人の希望する病院があれば、可能な限り対応させて頂いている。	従来のかかりつけ医に加え、利用者・家族の希望の医療機関がある場合、努めて支援するように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護があり、職員から看護師に入居者の状況を伝えている。異常や気になる事は相談に乗って頂き、受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を頻回に行い、入居者の状態を確認すると共に、顔馴染みを見て安心して頂く様に支援している。その都度、看護師と退院に向けての相談も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合と終末期ケア対応指針の説明を本人及び家族に説明し、サインを頂いている。運営推進会議などでも、重度化や終末期に関しての話し合いを行っている。	終末期に向けた対応、また、看取りに対する代表者の考え方は、方針の中で明確にあり、家族への説明や看取りの体験による職員間の共通認識を感じることができます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時のマニュアルを準備し、いつでも閲覧は可能ではあるが、訓練などは行ってはならず、知識や技術は不十分であると思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を入居者も含めて行い、通報や避難等の流れを繰り返し訓練している。昨年は夜間想定訓練も行い、隣のガソリンスタンドの協力も得られた。	前回の課題である夜間想定訓練は実施されていますが、訓練の内容及び反省など、今後に向けた対応が十分ではありません。また、住民の方々の協力に不安が残ります。	折角の避難訓練ですから、今後役に立つ反省点など、内容の検討が必要です。また、地域住民の方々の協力要請には、難しい点もありますが、マニュアルを作り、協力頂きたい役割を明確にするなどの取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の生活歴を考慮して声掛けを行っている。食事の時や排泄の時にも傷つけない声掛けを心掛けている。	職員は、利用者と暮らしを共にする中で、一人ひとりの人格の尊重に配慮した声掛けをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る服を選んで頂いたり食事の献立の希望を聞いたりして、自分で決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の大きな流れはあるが、それに固執するのではなく、疲れがある時は休んで頂いたり希望がある時は散歩したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着る服を選んで頂いたり、使い慣れた化粧品も使用している。家族が持ってきてくれる事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、簡単な調理を手伝って頂いている。後片付けもして頂いており、皆さん積極的に参加されている。	各ユニットで異なる献立により、食事が提供されています。味付けや色あいの工夫が見られ、楽しい食事の支援が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じて、刻み食やトロミ食を提供している。食事量や水分量は毎日記録しており、検査簿によって提供した料理のバランスも確認出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯磨きを促し、歯磨きが困難な入居者には介助を行っている。義歯は夜間に洗浄剤につけて、殺菌・消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が困難な入居者は排泄確認表をつけて、排泄サイクルを確認し失敗を減らす援助を行っている。おむつは予防的に使用しているが、基本的に全員トイレ誘導している。	職員は、利用者一人ひとりのパターンを把握しながら、何気ない誘導により、トイレでの自立排泄の支援が続けられており、利用者全員のトイレ使用を目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし水分を提供すると共に毎朝牛乳を勧めている。体操や散歩で体を動かし排泄を促している。下剤でのコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には3日毎に入浴を勧めているが、1日置きに入浴される方や毎日入浴（下半身も含め）を勧める方もいる。拒否のある方は、時間や職員を変えて声掛けを行っている。	週2～3回の入浴を勧めているほか、シャワー浴などを加えながら、利用者の楽しい入浴と清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて19時に休まれる方や23時に休まれる方がいる。夜間に寝つきが悪かった日などは、午前中に休憩を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに処方内容を保管し、職員が確認出来る。変更時は、毎日のミーティングの他にノートに記し情報を共有して、変更後の観察も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	学校給食の仕事をしていた人に食器洗いをお願いしたり、音楽が好きな人は居室で聴ける様にしているなど、それぞれが楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	演説会やお散歩など、外出の希望がある時は可能な限り対応している。職員だけではなく代表やボランティアの方々をお願いしている。	利用者が選挙演説を楽しむことや日常的な散歩など、閉じこもりを出来るだけ避ける外出の支援が行われています。夏には、代表者が借りている畑で行われる菜園作業が楽しみの一つとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理出来る場合は、家族とも相談して小額のみ管理している。その他、外出時などに小額のお金を渡して買い物を楽しめる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話は設置可能であり、事業所の電話も使って頂いている。電話操作の援助もしているが、通話は困難な方が多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に広報を貼ったり、季節の飾り付け(正月、雛祭、クリスマス等)をして、雰囲気を感じられるように配慮している。入居者と一緒に飾る事もあり、カレンダー等も手伝って頂いて作っている。	居間につながる食堂のスペースは、広々として開放感に満ちています。厨房の大きな可動式調理台は、利用者の身近まで移動できるなど、親しみやすい共有空間となっています。冬季間の湿度管理も職員の気配りで適切に行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの各所にソファやテーブルを配置して、自由にその場所を使用出来る。時々、気分転換に一人でソファに座る入居者もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人が使い慣れた物(タンス、テレビ、仏壇、写真、置物など)を持参して頂き、安心して過ごせる空間作りに努めている。	壁いっぱい貼られた動物の写真など賑やかな居室、また、シンプルな居室など、利用者の好みを反映した安心の居室作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけたり「トイレ」等の表記を付け、入居者が分かりやすい様に支援している。また各所に手摺を設置し、安全にも配慮している。		